
説教

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

説教

【コード】

N5920P

【作者名】

Litaly

【あらすじ】

よしお前ら、いますぐパンツ脱いでそこに並んで正座しろ！

厳しさの反対は、優しさじゃなくて甘さだと思う。

「優しくて寛容で穏やかな人」ばかりが評価されがちだけれど、リタはちよつと疑問に思う。

確かに、寛容で穏やかな人と関係を築くのは容易いし、辛くない。厳しい人と接するとしんどい事も多い。

でも、いつもいつも相手の寛容さや穏やかさに守られてしまっていたら、いつまで経っても自分の度量は育たないように思う。

許される事に慣れて、優しく諭される事に慣れて、そうやって育ったら、精神的な防御力はどんどん低くなって、現実の世に出たらきつと様々な場面で打ちのめされてしまう。

打ちのめされた時、耐えられる精神は、きつとそこに宿らない。

「愛のある厳しさ」の中で育った人は、きつと「厳しい人」の元を巣立った後でも、きつとやっていける。

「厳しく接してもらった日々」が後々の人生で役に立つ。

つい、目の前の相手の心情を考えると、相手が多少のミスをして

「優しい態度」で接してあげたくなってしまう。

でもそれはきつと本当の優しさじゃないんだ。

それは甘やかしなんだと思う。

だって厳しさの反対にあるものなんだから。

優しさのふりをしたそれは、「その瞬間、自分の目の前にいる相手」を守ってはくれるだろう。

でも、愛のある厳しさは、その瞬間相手を苦しませて、その後の人生通じて効力を発揮する。

「叱れる大人」は年々減っていく。

自分が相手から嫌われたくないから、叱れない。

そっという人が増えてる。

それが甘さである事、本当の優しさではない事に気づかないまま、相手に「その場限りの優しさ」を与えたがる大人が増えてる。

人を叱れる人間でありたいと思う。

でも相手に対する負の感情に突き動かされて怒るのは、叱る事とは違う。

それはただの批判であり、罵倒だ。

それは恥じるべき行為だと思う。

間違いをした相手以上に、未熟な人間がする恥ずべき失態だと思う。

自身の至らなさを恥じれない人間が、自分を棚に上げて人の欠点だけを罵るのは、きつとこの世のどんな過ちより愚かな事だと思う。

叱る行為には、必ず、相手に対する愛が無ければ駄目なんだと思う。

相手を批判したり非難するんじゃなくて、きちんと愛をもって叱れる人間でありたいと思う。

叱った相手に憎悪や恐怖の目を向けられる事を恐れないで、怯まな
いで、相手の目をちゃんと見て話せる人間でありたい。

この目に愛が宿っていれば、きつと届く。

とどかない時は、愛をちゃんと伝えてないだけ。

相手をちゃんと見てあげてないだけ。

僕は無神論者だし、自己啓発とか、平和主義とかには全く興味が無い人間だけど、愛の存在だけは信じていたい。

僕の大事な人たちは、みんな厳しかったけど、深く僕を愛してくれてたからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5920p/>

説教

2010年12月31日06時18分発行